高等学校 令和７年度（１・２・３学年用） 教科 教養 科目 セルフマネジメント

教 科： 教養 科 目： セルフマネジメント 単位数： 1 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 7 組 2 学年 1 組～ 7 組 3 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： １・２・３学年教員

使用教科書： （ ）

使用教材： （ 高校生手帳 ）

科目の目標

【 知 識 及 び 技 能 】 規則正しい生活習慣の確立を目指すとともに、高校生手帳を活用し社会において必要な自己管理力を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 高校生手帳を活用し日々の目標設定、自己の振り返りに取り組むことで、目標設定力、課題解決力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】 主体的に行動できる力、キャリアプランニング力等を育成するほか、自己肯定感や自己有効感についても育み、社会において活躍するための資質と能力を身に付ける。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
規則正しい生活習慣を確立している。 高校生手帳を活用し社会において必要な自己管理力を身に付けている。	高校生手帳を活用し日々の目標設定、自己の振り返りに取り組み、目標設定力、課題解決力を身に付けている。	主体的に行動できる力、キャリアプランニング力等を育成している。 自己肯定感や自己有効感を養い、社会において活躍するための資質と能力を身に付けている。

評価方法と割合：

【知識・技能】 全体の３分の１	【思考・判断・表現】 全体の３分の１	【主体的に学習に取り組む態度】 全体の３分の１
・手帳の活用状況	・手帳の活用状況	・授業における取組状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード（指導項目・内容）	知	思	態	評価の方法	実績（実施日） 1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	配当時間	評価
1学期	4	・手帳の記入法や活用法を理解できる。 ・日、週、月ごとの目標及び計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとに振り返りを行い、手帳に記入できる。	・手帳の活用法ガイダンス ・情報管理能力の伸長 ・手帳強化週間（手帳の提出、評価と助言を受ける。）	○	○	○	・学習への取り組み状況の観察 ・手帳の活用状況								14	
	5	・手帳を随時確認して主体的に行動できる。 ・日、週、月ごとの目標及び計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとに振り返りを行い、手帳に記入できる。	・主体的に行動できる力の伸長	○	○	○	・学習への取り組み状況の観察 ・手帳の活用状況									
	6	・確認テストの学習計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月の目標及び計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとに振り返りを行い、手帳に記入できる。	・手帳強化週間（手帳の提出、評価と助言を受ける。） ・実践的な計画力の伸長	○	○	○	・学習への取り組み状況の観察 ・手帳の活用状況									
	7	・１学期の振り返りを行い、手帳に記入できる。 ・長期休業中の計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとの目標及び計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとに振り返りを行い、手帳に記入できる。	・ＰＤＣＡサイクルの習得 ・情報管理能力の伸長	○	○	○	・学習への取り組み状況の観察 ・手帳の活用状況									
2学期	9	・日、週、月ごとの目標及び計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとに振り返りを行い、手帳に記入できる。	・手帳強化週間（手帳の提出、評価と助言を受ける。） ・情報管理能力の伸長	○	○	○	・学習への取り組み状況の観察 ・手帳の活用状況								15	
	10	・確認テストの学習計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとの目標及び計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとに振り返りを行い、手帳に記入できる。	・実践的な計画力の伸長	○	○	○	・学習への取り組み状況の観察 ・手帳の活用状況									
	11	・手帳を随時確認して主体的に行動できる。 ・日、週、月ごとの目標及び計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとに振り返りを行い、手帳に記入できる。	・手帳強化週間（手帳の提出、評価と助言を受ける。） ・主体的に行動できる力の伸長	○	○	○	・学習への取り組み状況の観察 ・手帳の活用状況									
	12	・確認テストの学習計画を立てることができる。 ・２学期の振り返りを行い、手帳に記入できる。 ・長期休業中の計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとの目標及び計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとに振り返りを行い、手帳に記入できる。	・実践的な計画力の伸長 ・ＰＤＣＡサイクルの習得	○	○	○	・学習への取り組み状況の観察 ・手帳の活用状況									
3学期	1	・日、週、月ごとの目標及び計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとに振り返りを行い、手帳に記入できる。	・情報管理能力の伸長	○	○	○	・学習への取り組み状況の観察 ・手帳の活用状況								10	
	2	・確認テストの学習計画を立てることができる。 ・日、週、月ごとの目標及び計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとに振り返りを行い、手帳に記入できる。	・手帳強化週間（手帳の提出、評価と助言を受ける。） ・実践的な計画力の伸長	○	○	○	・学習への取り組み状況の観察 ・手帳の活用状況									
	3	・３学期の振り返りを行い、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとの目標及び計画を立て、手帳に記入できる。 ・日、週、月ごとに振り返りを行い、手帳に記入できる。	・ＰＤＣＡサイクルの習得	○	○	○	・学習への取り組み状況の観察 ・手帳の活用状況									

高等学校 令和７年度（１学年用）　教科　教養　科目 ベーシックⅡ

教　科：　教養　科　目：　ベーシックⅡ　単位数：　2　単位

対象学年組：第　１学年　１組～　７組

教科担当者：　１学年教員

使用教科書：　（　）

使用教材：　（ 自主開発教材／ちびむすドリル　）

科目の目標

【知識及び技能】「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して行うことで、小・中学校や高校の授業における基礎事項を定着させる。

【思考力、判断力、表現力等】「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して行うことで、学習した内容を定着させ、それを用いて思考し自らの考えを表現する。

【学びに向かう力、人間性等】「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して行うことで、学習に取り組む姿勢を養う。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して学習している。 小・中学校や高校の授業における基礎事項が定着している。	「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して学習している。 学習した内容が定着しており、それを用いて思考し自らの考えを表現している。	「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して行うことで、学習に取り組む姿勢を養っている。

評価方法と割合：

【知識・技能】　全体の３分の１	【思考・判断・表現】　全体の３分の１	【主体的に学習に取り組む態度】　全体の３分の１
小テスト 授業プリント	小テスト 授業プリント	学習への取り組み状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード（指導項目・内容）	知	思	態	評価の方法	実績（実施日）							配当時間	評価
								1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組		
1学期	4 5 6 7	・反復訓練による基礎学力の伸長を実感させ、更なる学習意欲の向上を図る。 ・またこの時間で学んだ内容を授業で利用できることになることで、授業に臨む姿勢を上げていく。	毎回の授業で自作教材のプリントに取り組む。 科目は国語、数学、英語。基礎基本の自主学習を行う。 国語では漢字を中心に、数学では基礎計算、英語では不規則動詞の変化について学習する。	○	○	○	・取り組み状況の観察 ・プリントへの記述 ・小テスト								75 (20分間)	
2学期	9 10 11 12	・反復訓練による基礎学力の伸長を実感させ、更なる学習意欲の向上を図る。 ・またこの時間で学んだ内容を授業で利用できることになることで、授業に臨む姿勢を上げていく。	毎回の授業で自作教材のプリントに取り組む。 科目は国語、数学、英語。基礎基本の自主学習を行う。 国語では漢字を中心に、数学では基礎計算、英語では不規則動詞の変化について学習する。	○	○	○	・取り組み状況の観察 ・プリントへの記述 ・小テスト								90	
3学期	1 2 3	・反復訓練による基礎学力の伸長を実感させ、更なる学習意欲の向上を図る。 ・またこの時間で学んだ内容を授業で利用できることになることで、授業に臨む姿勢を上げていく。	毎回の授業で自作教材のプリントに取り組む。 科目は国語、数学、英語。基礎基本の自主学習を行う。 国語では漢字を中心に、数学では基礎計算、英語では不規則動詞の変化について学習する。	○	○	○	・取り組み状況の観察 ・プリントへの記述 ・小テスト								35	

高等学校 令和７年度（２学年用）　教科　教養　科目 ベーシックⅡ

教　科：　教養　科　目：　ベーシックⅡ　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　1 組～　7 組

教科担当者：　２学年教員

使用教科書：　（　　）

使用教材：　（　自主開発教材／メイツ出版「語彙力アップ徹底学習ドリル1100」／数研出版「新高校の数学　Step By Step」　）

科目の目標

【知識及び技能】「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して行うことで、小・中学校や高校の授業における基礎事項を定着させる。

【思考力、判断力、表現力等】「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して行うことで、学習した内容を定着させ、それを用いて思考し自らの考えを表現する。

【学びに向かう力、人間性等】「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して行うことで、学習に取り組む姿勢を養う。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して学習している。 小・中学校や高校の授業における基礎事項が定着している。	「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して学習している。 学習した内容が定着しており、それを用いて思考し自らの考えを表現している。	「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して行うことで、学習に取り組む姿勢を養っている。

評価方法と割合：

【知識・技能】　全体の３分の１	【思考・判断・表現】　全体の３分の１	【主体的に学習に取り組む態度】　全体の３分の１
小テスト 授業プリント	小テスト 授業プリント	学習への取り組み状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード（指導項目・内容）	知	思	態	評価の方法	実績（実施日） 1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	配当時間	評価
1学期	4 5 6 7	・反復訓練による基礎学力の伸長を実感させ、更なる学習意欲の向上を図る。 ・またこの時間で学んだ内容を授業で利用できることになることで、授業に臨む姿勢を上げていく。	毎回の授業で自作教材のプリントに取り組む。 科目は国語、数学、英語、地歴公民。基礎基本の自主学習を行う。 国語では漢字や語彙力、数学では基礎計算、英語では不規則動詞の変化、地歴公民では地理や日本史、ニュース検定５級の内容について学習する。	○	○	○	・取り組み状況の観察 ・プリントへの記述 ・小テスト								75 (20分間)	
2学期	9 10 11 12	・反復訓練による基礎学力の伸長を実感させ、更なる学習意欲の向上を図る。 ・またこの時間で学んだ内容を授業で利用できることになることで、授業に臨む姿勢を上げていく。	毎回の授業で自作教材のプリントに取り組む。 科目は国語、数学、英語、地歴公民。基礎基本の自主学習を行う。 国語では漢字や語彙力、数学では基礎計算、英語では不規則動詞の変化、地歴公民では地理や日本史、ニュース検定５級の内容について学習する。	○	○	○	・取り組み状況の観察 ・プリントへの記述 ・小テスト								90	
3学期	1 2 3	・反復訓練による基礎学力の伸長を実感させ、更なる学習意欲の向上を図る。 ・またこの時間で学んだ内容を授業で利用できることになることで、授業に臨む姿勢を上げていく。	毎回の授業で自作教材のプリントに取り組む。 科目は国語、数学、英語、地歴公民。基礎基本の自主学習を行う。 国語では漢字や語彙力、数学では基礎計算、英語では不規則動詞の変化、地歴公民では地理や日本史、ニュース検定５級の内容について学習する。	○	○	○	・取り組み状況の観察 ・プリントへの記述 ・小テスト								35	

高等学校 令和７年度（３学年用）　教科　教養　科目 ベーシックⅡ

教　科：　教養　科　目：　ベーシックⅡ　単位数：　2　単位

対象学年組：第　3 学年　1 組～　7 組

教科担当者：　３学年教員

使用教科書：　（　）

使用教材：　（ 自主開発教材　）

科目の目標

【知識及び技能】「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して行うことで、小・中学校や高校の授業における基礎事項を定着させる。

【思考力、判断力、表現力等】「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して行うことで、学習した内容を定着させ、それを用いて思考し自らの考えを表現する。

【学びに向かう力、人間性等】「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して行うことで、学習に取り組む姿勢を養う。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して学習している。 小・中学校や高校の授業における基礎事項が定着している。	「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して学習している。 学習した内容が定着しており、それを用いて思考し自らの考えを表現している。	「読み」「書き」「計算」に特化したプリントを反復して行うことで、学習に取り組む姿勢を養っている。

評価方法と割合：

【知識・技能】　全体の５０％	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】　全体の５０％
小テスト 授業プリント	小テスト 授業プリント	学習への取り組み状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード（指導項目・内容）	知	思	態	評価の方法	実績（実施日） 1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	配当時間	評価
1学期	4 5 6 7	・反復訓練による基礎学力の伸長を実感させ、更なる学習意欲の向上を図る。 ・またこの時間で学んだ内容を授業で利用できることになることで、授業に臨む姿勢を上げていく。	毎回の授業で自作教材のプリントに取り組む。 科目は国語、数学、地歴公民を中心に基礎基本の自主学習を行う。 国語では漢字、数学では割合と基礎計算、地歴公民では日本史と政治経済について学習する。また進路実現に向けて一般常識問題やSPIの問題も解いていく。	○	○	○	・取り組み状況の観察 ・プリントへの記述 ・小テスト								75 (20分間)	
2学期	9 10 11 12	・反復訓練による基礎学力の伸長を実感させ、更なる学習意欲の向上を図る。 ・またこの時間で学んだ内容を授業で利用できることになることで、授業に臨む姿勢を上げていく。	毎回の授業で自作教材のプリントに取り組む。 科目は国語、数学、地歴公民を中心に基礎基本の自主学習を行う。 国語では漢字、数学では割合と基礎計算、地歴公民では日本史と政治経済について学習する。また進路実現に向けて一般常識問題やSPIの問題も解いていく。	○	○	○	・取り組み状況の観察 ・プリントへの記述 ・小テスト								90	
3学期	1	・反復訓練による基礎学力の伸長を実感させ、更なる学習意欲の向上を図る。 ・またこの時間で学んだ内容を授業で利用できることになることで、授業に臨む姿勢を上げていく。	毎回の授業で自作教材のプリントに取り組む。 科目は国語、数学、地歴公民を中心に基礎基本の自主学習を行う。 国語では漢字、数学では割合と基礎計算、地歴公民では日本史と政治経済について学習する。また進路実現に向けて一般常識問題やSPIの問題も解いていく。	○	○	○	・取り組み状況の観察 ・プリントへの記述 ・小テスト								12	

高等学校 令和7年度（1学年用）　教科　教養　科目　ベーシックⅠ基礎

教　科:　教養　　科　目:　ベーシックⅠ基礎　　単位数:　1　単位

対象学年組:第　1 学年　1 組～　7 組

教科担当者:　（1組:菅原・西田・堀越・田鍋・澁谷・橘）　（2組:丸山・橘・佐藤貴・伊藤正・澁谷・見須）　（3組:見須・西田・杉江・堀越・丸山・野内）　（4組:澁谷・小宮山・橘・中村正・丸山・杉山）
（5組:柿原・西田・菅原・見須・佐々木・杉江）　（6組:野内・長谷川・杉江・丸山・中村正・杉山）　（7組:見須・東條・天野・小宮山・橘・丸山）

使用教科書:　（　　）

使用教材:　（　自校教材（国語、数学、英語、各プリント）、PCタブレット端末等　）

科目の目標　義務教育課程までの基礎基本の学習の定着を図り、社会生活における基礎的なマナーの向上を図る

【知識及び技能】　義務教育課程までの基礎基本の学習の定着を図る。

【思考力、判断力、表現力等】　コミュニケーション能力や社会生活における基礎的なマナーの向上を図る。

【学びに向かう力、人間性等】　自ら積極的に課題に取り組む姿勢をつくり、集中力の伸長を図る。学び、理解する喜びを得る。

評価規準:

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
・学習の初歩までさかのぼった自作のプリント教材を基礎学力の定着を図るために、自分のペースで繰り返し、取り組むことができる。 ・AI教材やPCを活用するためのルールを学ぶ。 ・到達度テストで自分の理解度や躓きにきづくことができる。 ・挨拶をはじめとした、社会人として必要なマナーを学び実践することができる。	・活動や学習を通して、自ら判断し表現する力を養う。	・学習の躓きに気づき自覚し、自ら質問することができる。 ・継続する力を養うために、各自目標を設定することができる。 ・授業への取組を自己評価し、向上を図る。

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード（指導項目・内容）	知	思	態	評価の方法	実績（実施日） 1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	配当時間	評価
1学期	4	○授業ガイダンス ○授業オリエンテーション 挨拶・授業規律について ○プリント学習 国・数・英　振返シート ○到達度テスト	・授業規律を知り、授業の流れを知る。 ・学習の初歩の初歩（基礎・基本）までさかのぼった自作のプリント教材を繰り返す事で、基礎学力の定着を図る。 ・学習の躓きに気づき自覚し、自ら質問する力を身に付ける。 ・挨拶を始め、社会人として必要なマナーを学び、実践する。	○	○	○	・授業への取組 ・プリント学習 ・振り返りシート ・到達度テスト								4	
	5	○プリント学習 国・数・英 ○AI教材/PC活用ルール等 ○プリント学習3教科とAI教材/PCのローテーション学習 →実施は6月～	・プリント学習により自己の課題や楽手の躓きを知る。 ・デジタル教材の活用ルールについて。 ・各自目標を設定し継続する力を養う。 ・コミュニケーション講座を通して他者との関わり方を学ぶ。 ・PCを利用した授業等への対応方法を学ぶ。 ・タイピング等の活用スキルの向上を図る ・プリント学習の継続、AI教材はカテゴリーを設定し、自分のペースで実施。相談スキルを伸ばす。	○	○	○	・授業への取組 ・プリント学習 ・振り返りシート								4	
	6			○	○	○									4	
	7			○	○	○									4	
2学期	9	○同上 ○ベーシックⅠ基礎でのまとめ ○AI教材活用 ○定着度の分析	・到達度テストを通して、学び直しのポイントや自ら躓きに気づく。 （以下、通年繰り返し、後半はベーシック発展にて実施）	○	○	○	・授業への取組 ・プリント学習 ・振返りシート ・到達度テスト								4	

高等学校 令和7年度（1学年用）　教科　教養　科目　ベーシックⅠ発展

教 科:　教養　科 目:　ベーシックⅠ発展　単位数:　1　単位

対象学年組:第　1 学年　1 組～　7 組

教科担当者:　（1組:西田・堀越・田鍋・橘）　（2組:橘・佐藤貴・伊藤正・澁谷）　（3組:西田・杉江・堀越・野内）　（4組:小宮山・橘・中村正・杉山）
（5組:柿原・西田・佐々木・杉江）　（6組:野内・杉江・中村正・杉山）　（7組:東條・天野・小宮山・橘）

使用教科書:　（　）

使用教材:　（　自校教材（国語、数学、英語、各プリント）、PCタブレット端末等　）

科目の目標　義務教育課程までの基礎基本の学習の定着を図り、社会生活における基礎的なマナーの向上を図る

【知 識 及 び 技 能】　義務教育課程までの基礎基本の学習の定着を図る。

【思考力、判断力、表現力等】　コミュニケーション能力や社会生活における基礎的なマナーの向上を図り、自ら意思表現を行う機会を持つ。

【学びに向かう力、人間性等】　自ら積極的に課題に取り組む姿勢をつくり、集中力の伸長を図る。
学び、理解する喜びを得る。

評価規準:

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
・ベーシックⅠ基礎で学習した自分のペースで繰り返し、取り組むことができる。 ・AI教材やPC活用するためのルールを学ぶ。 ・到達度テストで自分の理解度や躓きにきづくことができる。 ・挨拶をはじめとした、社会人として必要なマナーを学び自選することができる。	・活動や学習を通して、自ら判断し表現する力を養う。	・学習の躓きに気づき自覚し、自ら質問することができる。 ・継続する力を養うために、各自目標を設定することができる。 ・授業への取組を自己評価することができる。

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード（指導項目・内容）	知	思	態	評価の方法	実績（実施日）							配当時間	評価
								組	組	組	組	組	組	組		
2学期	10	○授業ガイダンス ○授業オリエンテーション 挨拶・授業規律について ○プリント学習 国・数・英　振返シート	・授業規律を知り、授業の流れを知る。 ・学習の初歩の初歩（基礎・基本）までさか のぼった自作のプリント教材を繰り返す事 で、基礎学力の定着を図る。 ・学習の躓きに気づき自覚し、自ら質問する 力を身に付ける。 ・挨拶を始め、社会人として必要なマナーを学び、実践する。	○	○	○	・授業への取組 ・プリント学習 ・振り返りシート ・到達度テスト								6	
	11・12	○プリント学習 国・数・英 ○AI教材/PC活用ルール等 ○プリント学習3教科とAI教材/PCのローテーション学習	・プリント学習により自己の課題や楽手の躓きを知る。 ・デジタル教材の活用ルールについて。 ・各自目標を設定し継続する力を養う。 ・プリント学習の継続 ・AI教材はカテゴリーを設定し、自分のペースで実施。相談スキルを伸ばす。 ・PCを利用した授業等への対応方法を学ぶ。 ・タイピング等の活用スキルの向上を図る。	○	○	○	・授業への取組 ・プリント学習 ・振り返りシート								8	
				○	○	○	・同上								4	
3学期	1・2・3	○同上 ○ベーシックⅠ発展でのまとめ ○到達度テスト ○定着度の分析	・プリント学習、及びAI,教材、PC活用の学びを深める。 ・学力の定着度をグラフなどにより。自己理解を踏める。	○	○	○	・授業への取組 ・プリント学習 ・振り返りシート ・到達度テスト								12	

高等学校 令和7年度（２学年用）　教科　教養　科目　ベーシックプラス

教　科：　教養　　科　目：　ベーシックプラス　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　1 組～　7 組

教科担当者：　伊藤　花山

使用教科書：（　　）

使用教材：（　Classi 「webドリル」　）

科目の目標

【 知　識　及　び　技　能 】　ベーシックⅠで学習した内容に加えて、社会生活で必要となる基礎・基本的な知識、技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】　自分に必要な勉強分野を理解し、繰り返し取り組むことで自己分析を常に行う。

【学びに向かう力、人間性等】　自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①ベーシックⅠで学習した内容の補足事項を含めた学び直しの基本的な学習内容を理解している。 ②学び直しのねらいを理解し、粘り強く学習することで学習項目を完全に理解することができる。	①国語・数学・英語について、学習内容の理解定着をねらいとした復習を重ねることができる。 ②学習内容に積極的に取り組み、自らの学力を向上させる努力を継続することができる。	①国語・数学・英語の学習で得た知識等を活用し、事象の考察や問題の解決に活用しようとしている。 ②継続学習において、粘り強く考え、その過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとしている。

評価方法と割合：

【知識・技能】　全体の３分の１	【思考・判断・表現】　全体の３分の１	【主体的に学習に取り組む態度】　全体の３分の１
①最終復習時点数 ②プリントの取り組み	①解答日時 ②復習回数	①学習に取り組む状況・ふりかえりの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード（指導項目・内容）	知	思	態	評価の方法	実績（実施日）							配当時間	評価
								組	組	組	組	組	組	組		
1	4	国　現代語訳 内容説明（古典） 数　正負の数 正負の数の計算 英　文型の基本 〈S+V〉の文	①月初めに月ごとの学習計画を立てる （国語・数学・英語） ②Classi「webドリル」への取り組み ・動画の内容をワークシートにまとめる ・理解度確認テスト ・自ら問いを立てる ③Classi「マナトレ」のプリント教材に取り組む ④１年次に使用したベーシックⅠ教材の続きに取り組む ⑤②③④を基に、学んだ内容を他の生徒に説明する(学習内容のアウトプット) ⑥受講者同士で教え合うことで理解を深める ⑦授業の最後に振り返りを行い、次時以降の学習の調整をする。	○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	5	国　理由・心情説明 和歌の理解 数　累乗 加法と減法 英　There構文 Ｓ＋Ｖ＋Ｏ		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	6	国　古文，語句の学習 「動作・状態」を読み取る 数　乗法と除法 式の値 英　補語と目的語の違い 動詞の活用		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	7	国　主語・目的語の確認 主語部分を探す 数　文字を使った式 文字式の計算 英　時制（現在・過去・未来） 〈S+V+C〉の文		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
2	9	国　和歌の心情読解 和歌の解釈 数　式の値 1次方程式の解 英　第２文型をとる動詞 いろいろな文型	①月初めに月ごとの学習計画を立てる （国語・数学・英語） ②Classi「webドリル」への取り組み ・動画の内容をワークシートにまとめる ・理解度確認テスト ・自ら問いを立てる ③Classi「マナトレ」のプリント教材に取り組む ④１年次に使用したベーシックⅠ教材の続きに取り組む ⑤②③④を基に、学んだ内容を他の生徒に説明する(学習内容のアウトプット) ⑥受講者同士で教え合うことで理解を深める ⑦授業の最後に振り返りを行い、次時以降の学習の調整をする。	○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	10	国　例置 四段活用動詞 数　方程式とその解き方 比例反比例 英　文の種類 補語と目的語の違い		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	11	国　変格活用動詞 識別・敬語 数　関数 垂直二等分線の性質 英　まぎらわしい自・他動詞 第４文型→第３文型		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	12	国　動詞_活用 助動詞_意味と接続 数　図形の移動 平面図形 英　toとforの使い分け 第４文型と第５文型		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
3	1	国　形容動詞の基本 同音語識別 数　円柱の体積 球の体積 英　Ｓ＋Ｖ＋Ｏ＋Ｃ 因果関係を表す第５文型	①月初めに月ごとの学習計画を立てる （国語・数学・英語） ②Classi「webドリル」への取り組み ・動画の内容をワークシートにまとめる ・理解度確認テスト ・自ら問いを立てる ③Classi「マナトレ」のプリント教材に取り組む ④１年次に使用したベーシックⅠ教材の続きに取り組む ⑤②③④を基に、学んだ内容を他の生徒に説明する(学習内容のアウトプット) ⑥受講者同士で教え合うことで理解を深める ⑦授業の最後に振り返りを行い、次時以降の学習の調整をする。	○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	2	国　使役・尊敬の助動詞 受身可能自発尊敬の助動詞 数　平均値・中央値・最頻値 ヒストグラムの読み取り 英　可算名詞と不可算名詞 数量形容詞の使い分け		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	3	国　打消推量の助動詞 過去の助動詞 数　資料の散らばりと代表値 データの活用 英　名詞の複数形 指示・人称・不定代名詞		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									

高等学校 令和７年度（２学年用）　教科　教養　科目　ブリッジ

教　科：　教養　　科　目：　ブリッジ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　1 組～　7 組

教科担当者：　佐々木　柴田

使用教科書：　（　　）

使用教材：　（ Classi 「学習動画」　）

科目の目標

【 知 識 及 び 技 能 】　各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】　他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の育成を目指す。

【学びに向かう力、人間性等】　自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①４年制大学進学後の学びでも知識不足とならないように、学び直しを踏まえた発展的な学習内容を理解している。 ②継続学習の本質を理解し、粘り強く学習することで学習項目を理解することができる。	①国語・数学・英語・理科・地歴公民について、学習内容の理解定着をねらいとした復習を重ねることができる。 ②学習内容に積極的に取り組み、自らの学力を向上させる努力を継続することができる。	①国語・数学・英語・理科・地歴公民の学習で得た知識等を活用し、事象の考察や問題の解決に活用しようとしている。 ②継続学習において、粘り強く考え、その過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとしている。

評価方法と割合：

【知識・技能】　全体の３分の１	【思考・判断・表現】　全体の３分の１	【主体的に学習に取り組む態度】　全体の３分の１
①平均初回正答率 ②取り組み問題数	①動画視聴数 ②視聴時間	①学習に取り組む状況・ふりかえりの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード（指導項目・内容）		知	思	態	評価の方法	実績（実施日）							配当時間	評価
									組	組	組	組	組	組	組		
1	4	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。	国語　語句の意味の理解 漢字の理解 小説読解理解 評論　全体把握 古文読解基礎 古文文法 現代語訳のポイント 漢文読解基礎 漢文句法 書き下し文 数学　数と式 整式の展開 3つの項の平方の展開 因数分解 絶対値 不等式 集合と命題 分母の有理化 ２次関数のグラフ ２次方程式 ２次不等式 三角比の値 英語　いろいろな文型 文の種類 比較級・最上級の用法 完了形 群動詞 仮定法 不定詞 時制（その他） 分詞構文 関係詞 接続詞 理科　運動とエネルギー 力学 波動 電磁気 物質の変化 無機物質 生物と遺伝子 生命現象と物質 生物の進化と系統 電気 生態と環境 地公　宝歴・天明期の文化 開国と幕末の動乱 明治維新 民権運動と憲法制定 議会と政党 護憲運動と政党政治 地球環境問題 青年期 宗教と人々の生活 経済成長と景気変動 貿易と国際収支	①月初めに月ごとの学習計画の見通しを持つ。 ②Classi学習動画の視聴する。 ・動画の内容をワークシートにまとめる ・理解度確認テスト ・自ら問いを立てる ③②を基に、学んだ内容を他の生徒に説明する。 （学習内容のアウトプット） ④受講者同士で教え合うことで理解を深める。 ⑤授業の最後に学習到達度を確認することを行い、次時以降の学習の調整をする。	○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 動画視聴数 視聴時間 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	5	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 動画視聴数 視聴時間 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	6	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 動画視聴数 視聴時間 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	7	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 動画視聴数 視聴時間 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
2	9	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。		①月初めに月ごとの学習計画の見通しを持つ。 ②Classi学習動画の視聴する。 ・動画の内容をワークシートにまとめる ・理解度確認テスト ・自ら問いを立てる ③②を基に、学んだ内容を他の生徒に説明する。 （学習内容のアウトプット） ④受講者同士で教え合うことで理解を深める。 ⑤授業の最後に学習到達度を確認することを行い、次時以降の学習の調整をする。	○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 動画視聴数 視聴時間 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	10	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 動画視聴数 視聴時間 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	11	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 動画視聴数 視聴時間 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	12	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 動画視聴数 視聴時間 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
3	1	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。		①月初めに月ごとの学習計画の見通しを持つ。 ②Classi学習動画の視聴する。 ・動画の内容をワークシートにまとめる ・理解度確認テスト ・自ら問いを立てる ③②を基に、学んだ内容を他の生徒に説明する。 （学習内容のアウトプット） ④受講者同士で教え合うことで理解を深める。 ⑤授業の最後に学習到達度を確認することを行い、次時以降の学習の調整をする。	○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 動画視聴数 視聴時間 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	2	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 動画視聴数 視聴時間 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	3	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 動画視聴数 視聴時間 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									

高等学校 令和７年度（２学年用）　教科　教養　科目　パソコン実務

教　科：　教養　　科　目：　パソコン実務　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年

教科担当者：　（　影山　）

使用教科書：　（　なし　）

使用教材：　（　日本語ワープロ検定試験　模擬問題集　３・４級編　）

単元の目標：

【知識及び技能】　情報機器と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身につけているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関りについて理解している。

【思考力、判断力、表現力等】　事象を情報機器とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。

【学びに向かう力、人間性等】　情報社会との関りについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報機器と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
情報機器と情報技術を問題の発見や解決に活用するための知識や技術を身に着けている。 情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりを理解することができる。	事象を情報機器とその結びつきの視点から捉えることができる。 問題の発見や解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いることができる。	情報社会との関わりについて考えることができる。 問題の発見や解決に向けて主体的に情報機器と情報技術を活用し、自ら評価し改善することができる。

評価方法と割合：

【知識・技能】　全体の３分の１	【思考・判断・表現】　全体の３分の１	【主体的に学習に取り組む態度】　全体の３分の１
・制作物（課題等） ・小テスト	・制作物（課題等） ・小テスト	・意欲的に学ぼうとする態度・自己評価等ふりかえりの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード（指導項目・内容）	知	思	態	評価の方法	実績（実施日）							配当時間	評価
								1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組		
1	4	・文書処理ソフトの基本操作	・ファイル名やフォルダー名など、保存する場合のルールを決め、様々な文書を作成することができる。	○		○	・授業内での課題提出 ・小テスト ・振り返りシートの記入								4	
	5	・定型文書の作成	・基本的な項目や型を理解することができる ・誰が見ても見やすく、わかりやすい文書を作成することができる。 ・基本的な文書の構成と、設定方法について理解することができる。	○	○	○	・授業内での課題提出 ・小テスト ・振り返りシートの記入								6	
	6	・視覚的な情報伝達	・文字だけではなく、写真やイラスト、図形などを挿入することができる。 ・視覚的にわかるチラシやポスターを作成することができ		○	○	・授業内での課題提出 ・小テスト ・振り返りシートの記入								8	
	7	・情報整理と伝達	・誤字や脱字がないか、論点がずれていないかを自ら見直しをすることができる。 ・文書処理ソフトの機能を使い、情報をわかりやすく伝えることができる。	○		○	・授業内での課題提出 ・小テスト ・振り返りシートの記入								4	
2	9	・表計算ソフトの基本操作 ・表作成のための工夫	・表計算ソフトの基本的な使用方法を知ることができる。 ・罫線を引くことや、重要な箇所に色を付けるなど、作成した表を見やすくすることができる。	○		○	・授業内での課題提出 ・小テスト ・振り返りシートの記入								8	
	10	・関数の利用	・関数の種類を知り、どのように使うかを理解することができる。 ・関数を使用し、様々な資料を作成することができる。	○	○	○	・授業内での課題提出 ・小テスト ・振り返りシートの記入								8	
	11	・グラフの作成 ・データの並べ替えと抽出	・表で作成した内容を視覚的に表現することができる。 ・グラフを正しく作成することができる。 ・条件に合うデータだけを抽出することができる。	○		○	・授業内での課題提出 ・小テスト ・振り返りシートの記入								8	
	12	・データの集計と分析	・ピボットテーブルを活用できるようになる。 ・データの集計と分析に関する様々な方法を理解することができる。		○	○	・授業内での課題提出 ・小テスト ・振り返りシートの記入								6	
3	1	・プレゼンテーションソフトの基本操作	・自分の考えを伝える手段として、プレゼンテーション資料を活用することができる。	○		○	・授業内での課題提出 ・小テスト ・振り返りシートの記入								6	
	2	・オブジェクトの挿入と編集	・画像やグラフなどのオブジェクトを挿入することができる。 ・効果的なプレゼン資料を作成するためにどのような工夫ができるかを考えることができる。	○	○	○	・授業内での課題提出 ・小テスト ・振り返りシートの記入								6	
	3	・効果的なプレゼンテーション	・プレゼンテーションに抑揚をつけて魅力あるものにすることができる。 ・人前で発表をすることができる。	○	○	○	・授業内での課題提出 ・小テスト ・振り返りシートの記入								4	

高等学校 令和7年度（３学年用）　教科　教養　科目　ベーシックプラスⅡ

教　科：　教養　　科　目：　ベーシックプラスⅡ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　3 学年　1 組～　7 組

教科担当者：　松隈

使用教科書：　（　　）

使用教材：　（　Classi 「webドリル」　）

科目の目標

【知　識　及　び　技　能】　ベーシックⅠで学習した内容に加えて、社会生活で必要となる基礎・基本的な知識、技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】　自分に必要な勉強分野を理解し、繰り返し取り組むことで自己分析を常に行う。

【学びに向かう力、人間性等】　自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①ベーシックⅠで学習した内容の補足事項を含めた学び直しの基本的な学習内容を理解している。 ②学び直しのねらいを理解し、粘り強く学習することで学習項目を完全に理解することができる。	①国語・数学・英語について、学習内容の理解定着をねらいとした復習を重ねることができる。 ②学習内容に積極的に取り組み、自らの学力を向上させる努力を継続することができる。	①国語・数学・英語の学習で得た知識等を活用し、事象の考察や問題の解決に活用しようとしている。 ②継続学習において、粘り強く考え、その過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとしている。

評価方法と割合：

【知識・技能】　全体の３分の１	【思考・判断・表現】　全体の３分の１	【主体的に学習に取り組む態度】　全体の３分の１
①最終復習時点数 ②プリントの取り組み	①解答日時 ②復習回数	①学習に取り組む状況・ふりかえりの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード（指導項目・内容）	知	思	態	評価の方法	実績（実施日）							配当時間	評価
								組	組	組	組	組	組	組		
1	4	国　現代語訳 　内容説明（古典） 数　正負の数 　正負の数の計算 英　文型の基本 　（S＋V）の文	①月初めに月ごとの学習計画を立てる （国語・数学・英語） ②Classi「マナトレ」教材に取り組む ・100点をとれるまで、もしくは１００点以下の問題に取り組む ③授業の最後に振り返りを行い、次時 以降の学習の調整をする。	○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	5	国　理由・心情説明 　和歌の理解 数　累乗 　加法と減法 英　There構文 　Ｓ＋Ｖ＋Ｏ		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	6	国　古文，語句の学習 　「動作・状態」を読み取る 数　乗法と除法 　式の値 英　補語と目的語の違い 　動詞の活用		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	7	国　主語・目的語の確認 　主張部分を探す 数　文字を使った式 　文字式の計算 英　時制（現在・過去・未来） 　（S+V+C）の文		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
2	9	国　和歌の心情読解 　和歌の解釈 数　式の値 　1次方程式の解 英　第２文型をとる動詞 　いろいろな文型	①月初めに月ごとの学習計画を立てる （国語・数学・英語） ②Classi「マナトレ」教材に取り組む ・100点をとれるまで、もしくは１０点以下の問題に取り組む ③授業の最後に振り返りを行い、次時 以降の学習の調整をする。	○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	10	国　倒置 　四段活用動詞 数　方程式とその解き方 　比例反比例 英　文の種類 　補語と目的語の違い		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	11	国　変格活用動詞 　識別・敬語 数　関数 　垂直二等分線の性質 英　まぎらわしい自・他動詞 　第４文型→第３文型		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	12	国　動詞_活用 　助動詞_意味と接続 数　図形の移動 　平面図形 英　toとforの使い分け 　第４文型と第５文型		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
3	1	国　形容動詞の基本 　同音語識別 数　円柱の体積 　球の体積 英　Ｓ＋Ｖ＋Ｏ＋Ｃ 　因果関係を表す第５文型	①月初めに月ごとの学習計画を立てる （国語・数学・英語） ②Classi「マナトレ」教材に取り組む ・100点をとれるまで、もしくは１０点以下の問題に取り組む ③授業の最後に振り返りを行い、次時 以降の学習の調整をする。	○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	2	国　使役・尊敬の助動詞 　受身可能自発尊敬の助動詞 数　平均値・中央値・最頻値 　ヒストグラムの読み取り 英　可算名詞と不可算名詞 　数量形容詞の使い分け		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									
	3	国　打消推量の助動詞 　過去の助動詞 数　資料の散らばりと代表値 　データの活用 英　名詞の複数形 　指示・人称・不定代名詞		○	○	○	解答日時 復習回数 最終復習時点数									

高等学校 令和７年度（３学年用）　教科　教養　科目　ブリッジⅡ

教　科：　教養　　科　目：　ブリッジⅡ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　3 学年　1 組～　7 組

教科担当者：　中村正

使用教科書：　（　　）

使用教材：　（ Classi 「学習動画」　）

科目の目標

【知識及び技能】　各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】　他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の育成を目指す。

【学びに向かう力、人間性等】　自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①４年制大学進学後の学びでも知識不足とならないように、学び直しを踏まえ、より発展的な学習内容を理解している。 ②継続学習の本質を理解し、粘り強く学習することで学習項目を理解することができる。	①国語・数学・英語・理科・地歴公民について、学習内容の理解と定着をねらいとした学習内容を行うことができる。 ②学習内容に積極的に取り組み、自らの学力を向上させる努力をすることができる。	①国語・数学・英語・理科・地歴公民の学習で得た知識等を活用し、事象の考察や問題の解決に活用しようとしている。 ②継続して学習し、その学習について考え、その過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとしている。

評価方法と割合：

【知識・技能】　全体の３分の１	【思考・判断・表現】　全体の３分の１	【主体的に学習に取り組む態度】　全体の３分の１
①平均初回正答率 ②取り組み問題数	①ワークシート取組状況 ②動画視聴状況	①学習に取り組む状況・ふりかえりの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード（指導項目・内容）		知	思	態	評価の方法	実績（実施日）							配当時間	評価
									組	組	組	組	組	組	組		
1	4	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。	国語　語句の意味の理解 漢字の理解 小説読解理解 評論　全体把握 古文読解基礎 古文文法 現代語訳のポイント 漢文読解基礎 漢文句法 書き下し文 数学　数と式 整式の展開 3つの項の平方の展開 因数分解 絶対値 不等式 集合と命題 分母の有理化 ２次関数のグラフ ２次方程式 ２次不等式 三角比の値 英語　いろいろな文型 文の種類 比較級・最上級の用法 完了形 群動詞 仮定法 不定詞 時制（その他） 分詞構文 関係詞 接続詞 理科　運動とエネルギー 力学 波動 電磁気 物質の変化 無機物質 生物と遺伝子 生命現象と物質 生物の進化と系統 電気 生態と環境 地公　定歴・天明期の文化 開国と幕末の動乱 明治維新 民権運動と憲法制定 議会と政党 護憲運動と政党政治 地球環境問題 青年期 宗教と人々の生活 経済成長と景気変動 貿易と国際収支	①Classi学習動画の視聴する。 ②動画の内容をワークシートにまとめる ③理解度確認 ④学習内容のアウトプット ・受講者同士で教え合うことで理解を深める。 ・内容に沿ったワークを行う ⑤授業の最後に学習状況を確認・ふりかえり	○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 ワークシートの取組状況 動画視聴状況 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	5	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 ワークシートの取組状況 動画視聴状況 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	6	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 ワークシートの取組状況 動画視聴状況 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	7	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 ワークシートの取組状況 動画視聴状況 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
2	9	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。		①Classi学習動画の視聴する。 ②動画の内容をワークシートにまとめる ③理解度確認 ④学習内容のアウトプット ・受講者同士で教え合うことで理解を深める。 ・内容に沿ったワークを行う ⑤授業の最後に学習状況を確認・ふりかえり	○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 ワークシートの取組状況 動画視聴状況 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	10	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 ワークシートの取組状況 動画視聴状況 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	11	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 ワークシートの取組状況 動画視聴状況 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	12	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 ワークシートの取組状況 動画視聴状況 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
3	1	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。		①Classi学習動画の視聴する。 ②動画の内容をワークシートにまとめる ③理解度確認 ④学習内容のアウトプット ・受講者同士で教え合うことで理解を深める。 ・内容に沿ったワークを行う ⑤授業の最後に学習状況を確認・ふりかえり	○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 ワークシートの取組状況 動画視聴状況 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	2	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 ワークシートの取組状況 動画視聴状況 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									
	3	・各自が大学・専門学校受験に必要な科目、また進学後に必要となる知識を身につける。 ・他者と協働学習することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 ・自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。			○	○	○	平均初回正答率 取り組み問題数 ワークシートの取組状況 動画視聴状況 学習に取り組む状況 ふりかえりの状況									